


## 審査結果報告書

2023年 1月 31日

主査 氏名 猶木 克彦 

副査 氏名 石倉 健司 

副査 氏名 鈴木 隆浩 

副査 氏名 天羽 康之 

1. 申請者氏名 : DM19012 近藤 惇一

2. 論文テーマ :

Investigation of poor prognostic factors in patients with asymptomatic dermatomyositis.

(無症候性皮膚筋炎患者における予後不良因子の検討)

3. 論文審査結果 :

申請者は、寛解導入療法を行った臨床的筋無症候性皮膚筋炎 (CADM) 患者において生命予後および機能予後に関連する因子をレトロスペクティブに検討した。2013年から2021年に北里大学病院で寛解導入療法が導入された31人で検討した。主要評価項目は間質性肺疾患 (ILD) に関連する死亡、副次評価項目は慢性的に酸素投与が必要な呼吸不全としILDによる死亡を含めた。31人中27人がILDと診断され、死亡は8人、呼吸不全は10人であった。死亡関連因子としてCOX比例ハザードおよび名義ロジスティック解析のいずれでも、年齢、抗MDA5抗体価、血清アルブミン値が有意な因子として抽出された。呼吸不全関連因子は、名義ロジスティック解析で、年齢、抗MDA5抗体価、血清アルブミン値が有意な因子として抽出された。ROC曲線を用いたカットオフ値によりリスクスコアを計算し、死亡率、呼吸不全の発生率を報告した。審査員からCADM患者の予後関連因子を検討した有意な報告であるとの意見があった。また、観察期間・抽出因子の妥当性、統計解析手法、合併症や治療の影響、性別による差、過去の報告との相違点、などに関して質問がなされた。これらに対し申請者は明快に回答された。後方視的検討で研究の限界があるものの、一定の意義があると評価された。以上より、本研究は学術的成果に資する価値ある業績と評価され、学位論文として適切であると判定された。